地質ニュース618号，68－70頁，2006年2月
Chishitsu News no.618, p.68－70, February, 2006

第3回地質写真コンテスト開催

谷田部信郎[1)]・青木　正博[1)]

はじめに

地質標本館において第3回地質写真コンテストを開催しました．

今回は4つの地質写真のカテゴリーに分けました．1つ目は「地質現象」，2つ目は「調査風景」，3つ目は「地質標本」です．そして過去2回の応募傾向を考慮して地質現象や調査風景の「組写真」を新たに設けました．産総研職員およびOBに応募を呼びかけたところ，2004年12月1日から2005年1月28日の応募期間中に65点の力作が寄せられました．内訳は，「地質現象」が35点，「調査風景」が10点，「地質標本」が10点，そして新たに設けられたカテゴリーの「組写真」が10点でした．写真の枚数は昨年の約半分88枚でしたが，昨年に負けない力作がそろいました．作品は，四切り～ワイド四切りのサイズにプリントされ，解説文とともに2005年3月3日から3月31日まで地質標本館ロビーに展示されました（写真1～3）．

応募作品の審査と表彰

ゲスト審査員の白尾元理氏（地質写真家）と，青木正博地質標本館長，須藤定久地質ニュース編集委員長の3名で入選作品およびグランプリの選考にあたりました．審査は3月30日の午後に行い，地質写真の内容の濃さ，構図とピント，階調の豊かさなどに注目をしながら，3人の審査員がそれぞれカテゴリーを横断的に10点を選んだ後，個々の作品について議論を行い，地質災害で4点，資源調査で2点，地質標本で2点，合計8点を入選作品としました（写真4）．

その中から造形的な面白さ，自然現象の切り口，白黒メディア選択の適切さの観点から「木ノ葉化石と石膏の花」（辻野　匠氏）をグランプリとして選びました．また，もうひとつの賞として，昨年同様入館者賞を設け3月1日から3月31日まで展示期間中の入館者に投票をしていただき，得票数上位6点を入館者賞としました．

今回の選考では，作品数が前回の半分ということもあり，入館者の投票による入館者賞の作品と審査

写真1　地質写真コンテストの案内．テーブルには投票用紙を用意しました．

写真2　ボードに展示した作品の一部．

1）産総研 地質標本館

キーワード：地質写真，地質現象，調査風景，地質標本，写真コンテスト

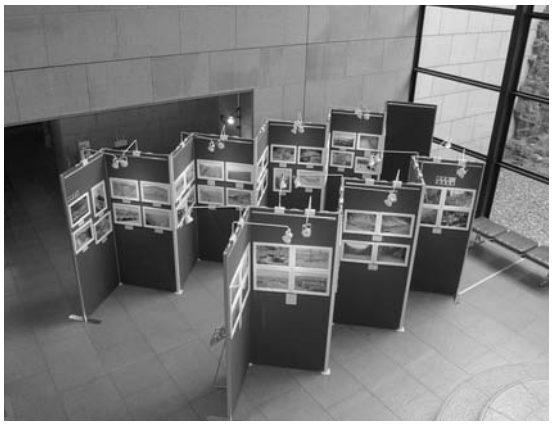

写真3　地質標本館ロビーに展示した作品の一部.

写真4　コンテストの入選作品を選んでいる3名の審査員. 左から, 白尾氏, 青木氏, 須藤氏.

員が選んだ入選作品がほとんど一致しました.

表彰式は, 4月15日の午前11時から地質標本館ロビーにて行いました. 各入選者・入館者賞の受賞者には, 地質標本館長から賞状と記念品を, グランプリ受賞者にはさらに記念トロフィーを贈呈しました.

作品の今後の取り扱い

入選作品および入館者賞作品は, 地質調査総合センターや地質標本館の絵はがき・カレンダー・グリーティングカード・地質ニュースの表紙や口絵など, 地質分野の広報目的に使用されます. 応募作品の一部は入選の有無にかかわらず今後デジタライズして“地質写真データベース”に登録すると共に, 地質標本館のWebページに掲載します. 写真の著作権は撮影者に, 産総研の広報目的の使用に関する権利は地質標本館に属するものといたします. 今までの作品は, 地質調査総合センターのグリーティングカード, 地質ニュースの表紙や口絵に, そして産総研国際部門発行の英語版のカレンダーにも採用されました. 今後も, コンテストの応募作品が, 地質写真としていろいろな場所に紹介されるようにしていきたいと思います.

入館者のアンケートから

入館者賞の投票用紙を使ってアンケートを実施しました. 投票総数60票のうち「地質写真コンテストに興味がもてた」には36名の方に「はい」と回答をいただき, おおむね好評であったと思われます. コンテストについての自由記載欄には,

- どれも興味深い写真で, 楽しく見させていただきました. 勉強になったし, とても充実していたと思います.
- 珍しい地形を見ることが出来て楽しかったです. 題名や説明文も楽しく拝見しました.
- 高校時代は地学部所属で野尻湖にナウマンゾウの発掘にも行きました. 地層を見ると, なんとなくウキウキしてしまいます. 地質写真コンテストは, 昔を思い出したり地道な調査活動の一端をかいま見れてとても有意義なものと思います.
- 見たことのないものがいっぱいで面白かった. 地震や噴火など・・・自然の力ってすごいなーと改めて実感.
- もっと地質現象そのものを解説して欲しい.
- 風景の大きさが理解しやすい様に, 面積や距離についても記述して欲しい.

などのコメントをいただきました.

また地質標本館についての自由記載欄には,

- 身近にこんなすごい物達を見せて頂ける所があり気に入っています. 子供は年齢によって興味を示す物が変わってきていて, 来るたびに楽しめます. 親は昔勉強したことがたくさんあり, 忘れてしまっていた物もあり, 頭を活性化させなくては!! とどきどきしました. 子供はコンピュータのクイズ解きに一生懸命でした. 最近地震が多く恐ろしく思っています. 入口近くに表示されている最近の地震データがいつも気になりチェックしています.
- 普段知ることの出来ない地震の仕組みや鉱物の種

第3回　地質写真コンテスト表彰式　2005年4月15日　　地質標本館

	題　名	テーマ・カテゴリー 地質現象	地質標本	調査風景	組写真	撮影場所	撮影年月日	カメラ名	フィルム名・画素数	氏　名	写真の説明
グランプリ・入館者賞	木ノ葉化石と石膏の花		○			栃木県塩原町中塩原木ノ葉化石園（産地）	1997.5.29	キャノン F-1（旧）	コダック トライX	辻野（つじの）　匠（たくみ）	栃木県塩原に分布する更新統塩原層群の珪藻質葉理泥岩から，写真のような木ノ葉化石を大量に産する．木ノ葉によって空隙ができるため，その空隙に浸み込んできた間隙水から鉱物が析出することが多い．写真の石膏も，そのような鉱物のひとつと考えられる．写真撮影は木ノ葉化石園園主加藤氏のご好意による．
入選・入館者賞	空から見た最近の三宅島火山	○			○	三宅島上空（警視庁ヘリ/東京消防庁ヘリ）	2004.8.10/11.16	Nikon CoolPix990	2048×1536	東宮昭彦（とうみやあきひこ）	2000年噴火以来活発な火山ガス放出活動が続く三宅島の最近の様子．(A) 南から見た三宅島．山腹は緑の部分（植生）と赤茶色の部分（火山ガスで荒廃）に分かれる．(B) 北西から見た山頂カルデラ．直径約1.6km．(C) (D) カルデラ内部にある主火口．大量の火山ガスはここから放出されている．[1，2は2004/11/16に東京消防庁ヘリより．3，4は2004/8/10に警視庁ヘリより撮影]
入館者賞	林道が峡谷に？	○				三宅島	2004.3.13	CASIO QV-10	960×1280 sugar2004-1.JPG	佐藤（さとう）　努（つとむ）	雨に流されて泥流となった三宅島の火山灰は，林道を流れているうちにその表面を次第に堀りこみ，こうして形成したガリーの深さは数mに達している．これを飛び越えて行く観測点もある．
入選	こんなのが当たったら・・・	○				三宅島	2005.1.31	CASIO QV-10	1280×960 sugar2004-3.JPG	佐藤（さとう）　努（つとむ）	三宅島2000年噴火では，中腹で40-50cmほどの噴石が降った．その跡を，アスファルトの凹みやヒビとして見ることができる．左側の凹みには噴石が食い込んでいて，落下の衝撃の大きさを物語っている．
入選・入館者賞	つくばから見た浅間山2004年噴火	○				産総研地調（第7事業所本館8階）	2004.9.14	Nikon CoolPix990	2048×1536	東宮昭彦（とうみやあきひこ）	2004年9月1日に21年ぶりに噴火した浅間山は，9月14～18日にかけても断続的に火山灰を放出する噴火を繰り返し，その最盛期には東京都を含む関東一円にも降灰があった．写真はそのときの噴火の様子を，浅間山から150km離れたつくばから観察した様子．写真右方の浅間山から，左方に向かって噴煙がたなびいている様子がよく分かる．
入選	ルビー		○			第7事業所7-2	2004.8.23	Nikon CoolPix4300	2272×1704	坂野靖行（ばんのやすゆき）	地質標本館1階ホールの「宝石コーナー」で展示されている標本．人工合成されたカット品である．
入選・入館者賞	新潟県中越地震で抜けた大根	○				新潟県川口町田麦山	2004.11.29	キャノン Power Shot G4	400万画素	宮地良典（みやちよしのり）	新潟県川口町では震度7となり，最大加速度は1,000galを超える地点もみられた．中でも田麦山地区は扇状地上で多くの家屋に被害があった．写真の大根はこの加速度によって抜け上がり傾いている．
入選・入館者賞	斑岩銅鉱床露天採掘			○		チリ北部・マリクンガ帯	2004.11.9	Panasonic Lumix DMC FX-5	200万画素	村上浩康（むらかみひろやす）	南米のチリは世界一の銅生産量を誇っており，2004年は約490万トンの銅を生産しました．そんな銅資源は，斑岩銅鉱床と呼ばれるところから採掘された銅鉱石を精錬することによって得られています．写真は，航空機から撮影した巨大な採掘現場です．すり鉢状に掘り下げられた形状が特徴的ですね．
入選	標高3,500mのキャンプ			○		チリ北部・マリクンガ帯	2004.11.11	Panasonic Lumix DMC FX-5	200万画素	村上浩康（むらかみひろやす）	チリ北部のマリクンガ帯の地質巡検にシュラフ持参で参加．初夏だというのに霜が降りる程の寒さ，高山病から派生した激しい頭痛が私たちを襲う…．これらに耐え抜いた翌朝，そんなことなど忘れさせてくれる風景がそこにはありました．湖にはフラミンゴが羽を休めている姿もありました．

類，地球のことについてよくわかりました．

・もう少し映像体験がほしい．

・2階の展示物を頻繁に替えて欲しい．

などの意見感想をいただきました．

これらの貴重なご意見は，今後の地質写真コンテストや地質標本館の運営に反映していきたいと思います．

YATABE Nobuo and AOKI Masahiro (2006)：Result report for the 3nd geological photograph Contest.

＜受付：2006年1月6日＞